

2017年度（平成29年度）事業報告
(2017年4月1日から2018年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 第58回日本神経学会学術大会は、第23回世界神経学会議(WCN2017)と同時に、下記のとおり開催した。

- ・大会長 宇川 義一 福島県立医科大学医学部神経内科学講座 教授
- ・会 期 2017年9月16日(土)から9月21日(木)までの6日間
- ・場 所 国立京都国際会館

(2) 第23回世界神経学会議(WCN2017)開催

WFNと連携してWCN2017を下記のとおり開催した。115ヶ国・5地域から8,617人の参加があった。

- ・第23回世界神経学会議会長 水澤英洋 国立精神・神経医療研究センター理事長
- ・会 期 2017年9月16日(土)から9月21日(木)までの6日間
- ・場 所 国立京都国際会館

(3) 学術大会運営について

①第62回学術大会大会長を選出した。

高橋良輔 京都大学大学院医学研究科臨床神経学教授

② 第59回学術大会(大会長 佐々木秀直 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野神経内科学教室 特任教授)の準備を行った。

(4) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。

北海道地方会(2回)、東北地方会(2回)、関東・甲信越地方会(4回)、東海・北陸地方会(3回)、近畿地方会(3回)、中国・四国地方会(2回)、九州地方会(4回)

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

① 機関誌「臨床神経学」57巻4号～58巻3号の全てを通常号発行した。いずれも電子ジャーナルである。

② 電子化(PDF化)した第47巻以前の臨床神経学の一部を学会ホームページに掲載した。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した(Volume5, Issue3～Volume6, Issue2)。

(3) 診療ガイドライン作成

- ① 新規のガイドラインとして作成を進めてきた単純ヘルペスウイルス脳炎、認知症、多発性硬化症・視神経脊髄炎およびてんかんの各診療ガイドライン（改定版）を出版した。また、ジストニア、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の各診療ガイドライン作成を進めるとともに、新規に HTLV-1 関連脊髄症（HAM）診療ガイドラインおよび筋強直性ジストロフィー診療ガイドラインの作成に着手した。
- ② 改訂版であるパーキンソン病診療ガイドラインおよび神経疾患の遺伝子診断ガイドラインについて、作成作業を進めた。

(4) 他機関の難病診断基準やガイドライン作成への協力

厚生労働科学研究費補助金の助成を受けて活動が行われる難治性疾患研究事業で作成された難病診断基準や他学会ガイドラインの評価などの協力を行った。

3 標榜科名の変更について

一般の方々に神経内科の診療内容をよりよく理解していただくことを目的として、本学会は標榜診療科名を「神経内科」から「脳神経内科」に変更することを決定した。この決定に基づき会員や関係医療機関、関係学科等に標榜科名の変更に協力を要請した。今後も引き続き協力要請を行っていく予定である。

4 啓発活動

(1) 市民公開講座を次の予定で開催した。

- ・ 第58回学術大会開催時市民公開講座
2017年9月3日（日） 京都大学百周年時計台記念館

(2) 広報活動

- ① 2018年3月に会員向けのニュースレター（第3号）を発行し、会員に郵送で届けた。
- ② 新規事業として、医学生・研修医に神経内科の魅力を伝えるための「神経内科サマーキャンプ」を神奈川会場および鹿児島会場の2か所で開催した。
- ③ さらに、本学会認定施設で行われる神経内科を紹介する説明会やセミナー等の企画を、本学会ホームページで紹介するページを設け、各施設から寄せられた情報を掲載した。

(3) 神経内科フォーラムの活動支援

神経内科フォーラムが、2017年12月、神経内科と神経疾患を広報する新聞広告を掲載した（日本経済新聞、読売新聞）。

5 研究奨励

(1) 日本神経学会賞を次のとおり選考した。

(学術研究部門)

山口大学大学院医学系研究科神経内科 清水 文崇

「自己免疫性神経疾患から血液脳関門／血液神経関門を人為的に操作する新規標的分子の同定とその臨床応用」

神戸大学大学院医学研究科神経内科/分子脳科学 佐竹 渉

「孤発性パーキンソン病の遺伝学的研究」

(診療部門)

東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座神経内科学 榊原 隆次

「膀胱・消化管障害における神経学の確立を目指して」

6 研究推進

(1) 将来構想の検討

将来構想委員会を中心に、本学会での研究活動に関する将来構想についての検討を進め、「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」2016をまとめ、各方面に提言した。

(2) 他団体との連携協力

神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力した。

7 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

① 第43回専門医試験を次のとおり実施した。

- ・第1次試験 2017年6月10日(土)(東京大学教養学部駒場キャンパス)

合格者数 196名

- ・第2次試験 2017年7月8日(土)(日本都市センター会館)

合格者数 207名

② 第23回専門医認定更新を実施した。

(2) 教育施設

① 施設認定更新

2018年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。

② 指導医認定

2018年4月1日から認定する指導医認定を実施する。また、2018年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。

新規認定者数 110名

認定更新者数 103名

(3) 専門医制度

- ① 専門医制度の改革に対応するため、神経内科領域における専門医育成のための教育・研修カリキュラム等の検討を進めた。2018年4月から新専門医制度が始まる予定である。
- ② 一方、神経内科専門医は、神経内科専門医課題検討委員会でこれまでの神経内科専門医設置と運営の経緯、現状の分析に基づく神経内科専門医の在り方の検討を行い、基本領域化を目指すべきであるとの答申が出された。そして、この答申内容について、会員を対象とした説明会を実施した。

そして、神経内科専門医課題検討委員会答申を踏まえて、日本内科学会および日本専門医機構その他関係機関の理解を得て、基本領域を目指す方針が取りまとめられ、2018年1月8日の理事会および臨時社員総会で承認された。

さらに、本学会に神経内科基本領域化推進対策本部を置き、関係機関の理解を得るための活動を進めた。

8 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

- ① 第14回生涯教育セミナー（レクチャーのみ）を2017年5月14日、東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂で開催した。
- ② Neuromuscular Conference 共催でハンズオンセミナー「神経・筋生検」を、2017年7月30日東京医科歯科大学で実施した。
- ③ 以下の地区で生涯教育講演会を開催した。

北海道地区、東北地区、関東・甲信越地区、東海・北陸地区、近畿地区、中国・四国地区、九州・沖縄地区。

(2) 専門医育成教育事業

- ① 第9回専門医育成教育セミナーを2017年5月21日（日）、東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂で開催した。
- ② 2017年12月10日（日）に千葉県船橋会場で第10回専門医育成教育セミナーを開催した。

(3) 教育コンテンツ配信事業

GSK 教育事業助成制度の資金をもとに、3か年計画で動画等の配信システムを構築する計画の下に、今年度はeラーニングシステムを整備するとともに、生涯教育セミナーの収録、教育用動画など、教育コンテンツの制作を行った。

(4) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師や教育用動画制作で教育活動に貢献した会員5名を表彰した。

(5) 会員の研修支援事業の実施

- ① 国内研修は4人の会員を支援した。
- ② 今年度から実施した海外留学について、4人支援することを決定した。

(6) 教育プログラムについて

第59回学術大会時の教育プログラムを検討するとともに、来年度(2018年度)に初めて特別教育研修会・脳卒中コースを実施することを決定した。

9 診療向上のための活動

(1) 診療報酬改訂への取り組み

2018年度(平成30年度)診療報酬改訂のため、内科系学会社会保険連合(内保連)と協力して、要望活動を行った。

(2) 新薬承認審査の促進等に関する要望活動

神経疾患患者に対する医療の質の向上を図る一環として、必要に応じて新薬承認審査の促進等に関する要望活動を積極的に行った。

10 国際協力

- ① アジア地域の神経内科医との交流を通して神経学の向上に寄与する事業を継続する。今年度は11月8日から11日にマニラで開催される、The joint 12th ASNA Biennial Convention and 39th PNA Annual Convention に日本から4人の講師を派遣した。

11 その他の事業

(1) 災害支援ネットワークシステムの充実

本学会における、災害発生時の対応マニュアルを作成した。そのマニュアルに基づき、災害時に主に医療支援に関する関係機関等との調整を担う神経難病ネットワーク長および神経難病リエゾンを各県に委嘱した。

(2) アーカイブズ資料収集・管理事業

本学会に活動を紹介する「画像で見る日本神経学会の歴史と発展」の英文版を作成し、WCN 2017の会期中、会場内で紹介した。

また、WCN 2017の活動報告書の作成に着手した。

(3) 関係団体との連携・協力

① 日本医学会連合との連携

一般社団法人日本医学会連合の活動に協力した。

② 日本医療安全調査機構などとの連携

日本医療安全調査機構や医療機関からの要請を受けて、医療事故等の調査に専門家を派遣するなど、医療安全を確保するための活動に協力した。

③ 日本脳科学関連学会等との連携

高校生を対象とした脳科学オリンピックへの支援に協力するとともに、将来構想の立案に参画するなどの活動を行った。その他、臓器移植関連学会協議会、脳心血管病協議会など関係団体の活動に参加した。

12 一般社団法人としての運営

(1) 理事選出上限数の拡充（20名を22名）と理事選挙の優先枠（大学以外の組織枠、女性枠）の新設、監事の増員（2名を3名）など、学会の運営体制の見直しを行った。

(2) 理事選挙

2018年の学術大会終了後から任期が始まる理事の選挙を行った。